

小学校 図画工作科 部会

部会長 中元寺小学校 校長 小山 秀宣
実践者 伊方小学校 教諭 石川 まゆみ

1 研究主題

「確かな学力向上をめざす図画工作科学習指導のあり方」
～感性を働かせ、つくりだす喜びを味わう活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

現代社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になってくる。

変化の激しい社会を担う子どもたちには、基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性が必要になってくる。そのため、豊かな感性を働かせながら、自分の思いや願いを様々な形で表現したり、周りの人たちの表現の違いに気づいたり、それを認めたりする能力を育てることが大切である。

以上のことから、図画工作の実践は、児童の「生きる力」を育むうえで重要な役割を担っていると考えられる。

(2) 図画工作科の目標から

図画工作科のねらいは、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことである。

図画工作科の学習は、自らの感性を働かせながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。このような過程は、その本来の性質に従い、おのずとよさや美しさを目指すことになる。それは、生活や社会に主体的にかかわる態度を育てるとともに、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする豊かな心を育てることにつながる。

児童自身に本来備わっている資質や能力を一層伸ばし、児童が自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う活動に取り組むことは意義深い。

(3) 児童の実態から

本学級の児童は、5年の題材「くるくる回して」で、針金・箱・色画用紙・折り紙などを材料にして作品を作り上げた。しかし、針金がクランク状態になった物からの作品作り

だったため、一人ひとりが自分の思いを持ち、発想を広げながら作品を作るまでには至らなかった。また、発想や構想の段階で思うように活動が進まない児童が多く、どう作成していけばいいのかわからなかったり、表現意欲が最後まで持続しなかったりする実態があった。

このような児童の実態から「新聞紙で形作りをする」簡単な活動をすることで、材料体験を発想段階に仕組み、ある程度の形の見通しをもった基本的構造を理解させたり、組み立て方をいろいろと試させたりする活動を仕組むことで、自分の表現活動に自信をもたせ、表現意欲を持続させていきたいと考える。また、各段階で書く活動を基に、交流活動や鑑賞活動を位置づけたい。

3 主題の意味

図画工作科における「確かな学力」とは、基礎・基本としての資質や能力を支え、その基盤となる知識や能力、見方・感じ方と考えられる。ただ作り方や描き方を機械的にたどっていけば身につくものではない。子どもが自分で具体的なものに目を向け、そこから自分の思いを材料に託して表現するなかで、子ども自らが気づき身につけていくものである。つまり、子どもの表現や鑑賞の活動と常に一体となって働く力であると考えられる。

そのためには、ある題材の中で育てたい資質や能力を可能な限り具体的な子どもの姿で設定することが大切であると考えられる。さらに、その資質や能力を支える知識や技能・感じ方を発達段階や実態をもとに考え、子ども自身が気づき身につけていくことができるように、学習過程の各段階で書く活動を基に、交流活動や鑑賞活動の位置づけを工夫していくことが大切であると考えられる。このような学習過程を行っていくことで、図画工作科における「確かな学力」が向上していくと考える。

4 研究の目標

図画工作科における確かな学力の向上をめざすために、感性を働かせながら、書く活動を基に、交流活動や鑑賞活動の位置づけを工夫して、つくりだす喜びを味わう学習活動のあり方を究明する。

5 研究仮説

図画工作科の学習指導において、次のような手だてをとれば児童は感性を働かせながら意欲的に活動し、確かな学力向上へとつなげることができるであろう。

- (1) 児童の表現意欲を喚起することができるように、題材との出あわせ方を工夫する。
- (2) 児童の表現意欲を持続させるために、発想・構想の段階で表現活動を仕組む。
- (3) 友だちの表現の良さに気付くことのできる鑑賞活動を設定する。

6 研究の計画（授業の計画）

- (1) 題材 「線が包んだ形、線がつくった形」
- (2) 題材目標及び指導計画

単 元	線が包んだ形、線がつくった形	総時間	6 時間	時期	9 月
	○針金の組み合わせからできる形のおもしろさに興味をもち、楽しんで取				

単元の目標	<p>り組む。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○針金の組み合わせを試しながら、よさや美しさを考え、表したいイメージを広げる。 (思考・判断・表現)</p> <p>○材料や用具の特徴を生かした組み合わせ方を考え、表し方を工夫する。 (技能)</p> <p>○線でできる形のおもしろさや材料のよさをもとに自他の表し方の違いに気づき、伝え合う。 (知識・理解)</p>		
指導計画	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点
第1時	○新聞紙を丸めてできあがった形からイメージをふくらませる。	<p>1 新聞紙を丸めてビニル袋に入れ、粘着テープを巻いて形を変化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった形からイメージしたことをワークシートに書こう。 	<p>○新聞紙は野球ボールの大きさに丸めさせる。</p> <p>○ビニル袋に粘着テープ巻き付けることで形を変化させる。</p> <p>○形に注目して取り組むようにさせる。</p>
第2時 第3時	○新聞紙を組み合わせてできた形に、針金が交差するようにしっかりと巻く。	<p>2 ビニル袋に針金をしっかりと巻きつけ、丈夫に作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太い針金・細い針金用法で巻こう。 ・いろいろな方向から巻くとしっかりと巻けるよ。 ・できあがった形からイメージしたことをワークシートに書こう。 <p>3 ビニル袋を切り、中の新聞紙を出す。形を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針金のすき間から、そっと新聞紙を抜こう。 	<p>○巻きつけた針金に、さらに交差するように巻くようにさせる。</p> <p>○針金もしっかり交差するよう縦軸と横軸を意識させる。</p> <p>○針金の形が崩れないように、丁寧に新聞紙を抜く。もし、形が少し崩れても再度ペンチで針金を交差させる。</p>
第4時 第5時	○針金でできた形から思いついたことを表そう。	<p>4 針金の形から思いついたことを表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラフル針金をくっつけて、いろんな作品に変身させる。 	<p>○針金をいろいろな方向から見させ、想像力を働かせる。</p> <p>○針金の外側・内側の両方の空間に注目させる。</p> <p>○表したい物に合わせて使え</p>

			る材料（カラフル針金・モール・色画用紙・紙等）や用具（ラジオペン・はさみ等）を用意する。
第6時	○自分と友だちの表し方の違いを見つけ、言葉にして伝え合おう	5 友だちの作品をみる中で表し方の違いに気づく。 6 友だちとの違いを伝え合おう。	○自分が思いつかなかったこと、自分との違いに注目して友だちの作品を見るようにさせる。 ○感じたことを、しっかり言葉で伝える事ができるように、ワークシートを基に、小グループにして伝え合わせる。

7 指導の実際

指導計画	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点
第1時	○丸めた新聞紙を組み合わせてできる形をたのしもう。	<p>1 新聞紙を丸めてビニル袋に入れ、粘着テープを巻いて形を変化させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニル袋にテープをきつく巻くと、その部分が細くなることに気づく。 ・できあがった形からイメージしたことをワークシートに書く。 	<p>○新聞紙は野球ボールの大きさに丸める。</p> <p>○ビニル袋に粘着テープ巻き付けることで形を変化させる。</p> <p>○形に注目して取り組むようにする。</p>

- ・くねくねしているところが、へビに見えるね。
- ・はじが角になっていて、真ん中がふくらんでい

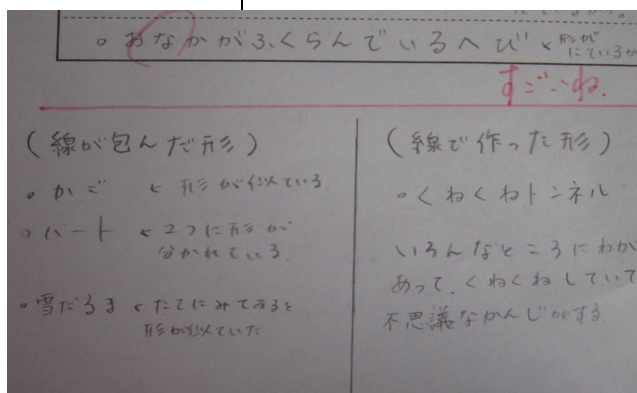
第2時
第3時

○新聞紙を組み合わせてできた形に、針金が交差するようにしっかりと巻こう。

で、クロワッサンに見えるね。

2 ビニル袋に針金をしっかりと巻きつけ、丈夫に作る。
・太い針金・細い針金を上手に使って巻こう。
・いろいろな方向から巻くとしっかりと巻ける。
・できあがった形からイメージしたことをワークシートに書こう。

○巻きつけた針金に、縦軸・横軸がさらに交差するように巻いていくようにさせる。



【イメージを言葉に】

・線で包んだ形の時には『かご・ハート・雪だるま』というイメージで線で作った形になると、『くねくねトンネル』に変わったよ。

【針金を巻いた後の作品】

○ビニル袋を切り中の新聞紙を出す。形を整える。

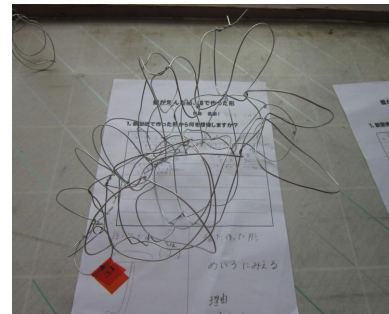
3 針金の形が崩れないよう丁寧に新聞紙を抜く。

○針金の形が崩れないようにもし、形が少し崩れても再度ペンチで針金を交差させる。

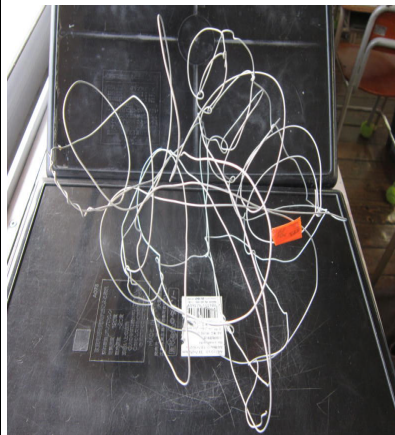


【針金のすき間からそうっと新聞紙を抜いている所】

- ・ビニル袋を切り、中の新聞紙を出す。
- ・針金のすき間から、そうっと新聞紙を抜こう。



【針金を巻いた後の作品】



【針金を巻いた後の作品】



【針金を巻いた後の作品】

第4時
第5時

○針金でできた形から思いついたことを表そう。

4 針金の形から思いついたことを表す。

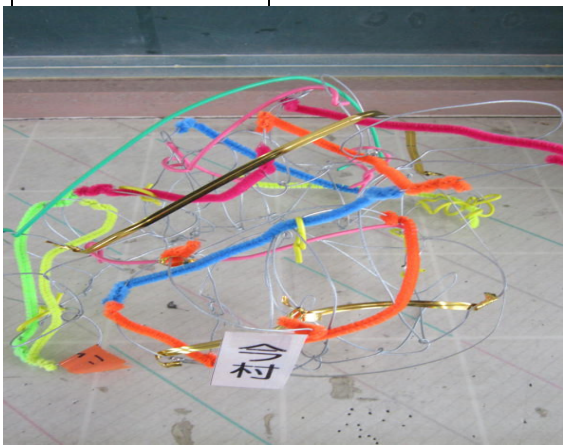
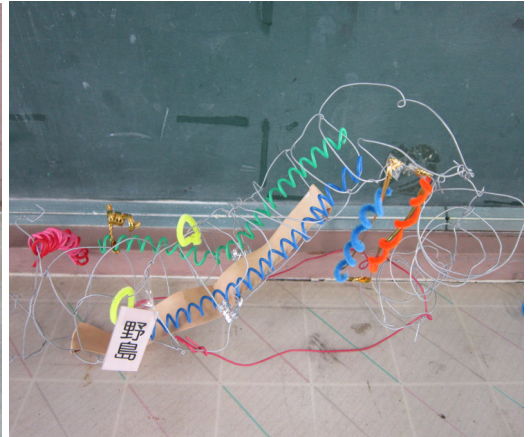
- ・魚の形に似ているから尾びれを付けてみよう。
- ・思い出が詰まった宝箱にしたいから、写真立にしよう。
- ・体がくねしているからとても。おもしろいな。いも虫みたいだな。
- ・カラフル針金をくっけて

○針金をいろいろな方向から見させ、想像力を働かせる。

○針金の外側・内側の両方の空間に注目させる。

○表したい物に合わせて使える材料（カラフル針金・モール・色画用紙・紙等）や用具（ラジオペン・はさみ等）を用意する。

いろんな作品に変身させたいな。



第6時

【児童の作品】

5 友だちの作品をみる中で表し方の違いに気づく。

同じ形でも地球に見えたり、人に見えたり、卵に見えたりして、おもしろいな。

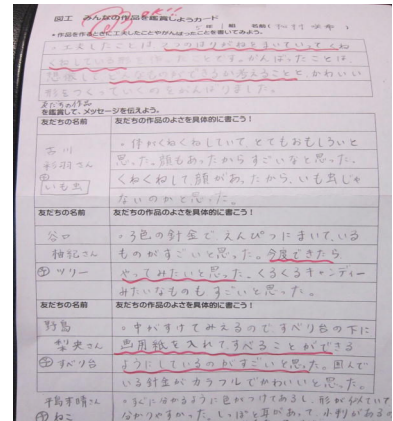
・同じ針金でも、巻き方や使い方が違うと、作品が違うな。友だちの方がアイデアがいいな。僕もためしたいな。

○自分と友だちの表し方の違いを見つけ、言葉に

6 友だちとの違いを伝え合う。

・3色の針金を鉛筆を使

○自分が思いつかなかったこと、自分との違いに注目して友だちの作品を見るようにさせる。



【児童の鑑賞カード】

○感じたことを、しっかり言葉で伝える事ができるように、ワークシートを基に、

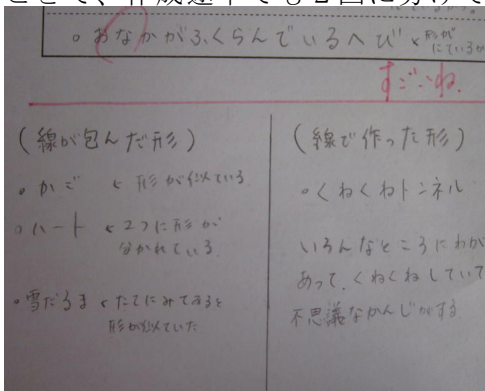
して伝え合おう	って巻いていた。今度できたらやってみたいと思った。 ・画用紙を使って、滑る事ができるようにしているのがすごいと思った。	小グループにして伝え合わせる。
---------	--	-----------------

8 研究のまとめ

今までの学習で、一人ひとりが自分の思いを持ち、発想を広げながら作品を作るまでには至らなかったり、発想や構想の段階で思うように活動が進まない児童が多くいた。それは、どのように作品を作成していけばよいのかが分からなかったり、表現意欲が最後まで持続しなかったりする実態があったからだと考えられる。

そこで本研究では、児童の表現意欲を喚起することができるように、題材との出会わせ方を、誰もができる新聞紙を丸める活動からはじめ、できあがった形のイメージを全員に考えさせ、その

イメージをワークシートに書かせた。【資料1】全員が何らかのイメージを持つことができた。次に児童の表現意欲を持続させるためには、発想・構想の段階で、作品を変化させることで、作成途中でも2回に分けてイメージをふくらませる表現活動を仕組み、イメージの変化を楽しむことができた。



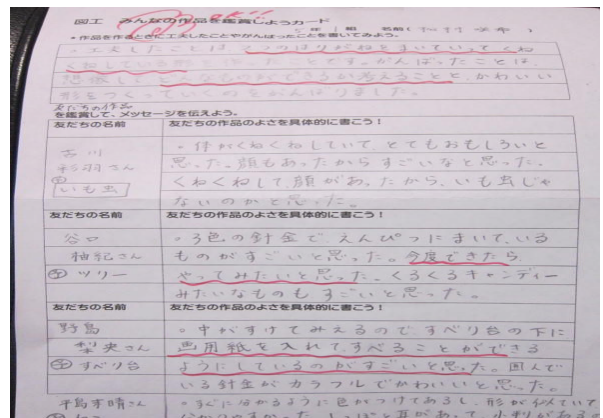
【資料2】

【資料2】 線が包んだ形のイメージと線で作った形のイメージの変化を言葉で表したワークシート】

最後にできあがった友だちの作品を鑑賞することで、表現の良さに気付くことのできる鑑賞活動(小グループにて伝え合う)を設定した。

【資料3 友だちの良い所を書いたワークシート】

学習過程の各段階でイメージを言葉で表す書く活動を基に、交流活動や鑑賞活動の位置づけを工夫していくことが大切であると考えられる。このような学習過程を行っていくことで、図画工作科における「確かな学力」が向上していくと考える。



9 成果と今後の課題

(成果)

- 誰もができる新聞紙を丸める活動からはじめる題材との出会わせ方は、どの子もスムーズに楽しそうに活動できていた。また、できあがった形のイメージを全員に考えさせ、そのイメージをワークシートに書かせたことは良かった。
- 発想・構想の段階で、作品を変化させることで、作成途中2回に分けてイメージをふくらませる表現活動を仕組んだことは、制作意欲を持続させる上で良かった。

(課題)

- まとめの段階では、感じたことを言葉でしっかり伝える事ができるように、ワークシートを基に、小グループにして伝え合わせようとしたが、自分が記録していることを伝えるだけにとどまり、グループの中で交流するまでには至らなかった。

◎ 参考文献

小学校学習指導要領解説 図画工作編

学習指導要領の解説と展開 図画工作編

図画工作 学習指導書 指導案編

文部科学省

安彦忠彦・三澤一実 編著

教育出版

開隆堂